



第 1 章

顔の老化の実態と スキンケアの現状



加齢とともに顔の外観は大きく変化する。額には深いシワが刻まれ、頬はたるみ、フェースラインは曖昧となる。こうした変化は多くの女性の悩みとなり、それに対するスキンケアの開発が盛んに行われている。ここでは、スキンケアを理解する上で必要な基礎知識として、顔の老化の実態、顔の皮膚の機能と構造、顔の老化の原因、それに対するスキンケアの現状を見ていく。



1-1 顔の老化の実態

加齢に伴う顔の形状変化は、大きく「たるみ」と「シワ」に分けられる。重力により皮膚が下垂した状態がたるみであり、表情や動きにより皮膚が変形してできる溝状の構造がシワである。

1) たるみ

たるみは重力により、皮膚が下垂した状態のことである。図1-1に頬と目の下のたるみを示した。頬では頬の上部、下部、外辺部の3カ所でたるみが発生し、その間にはたるみが少ない場所が存在する。

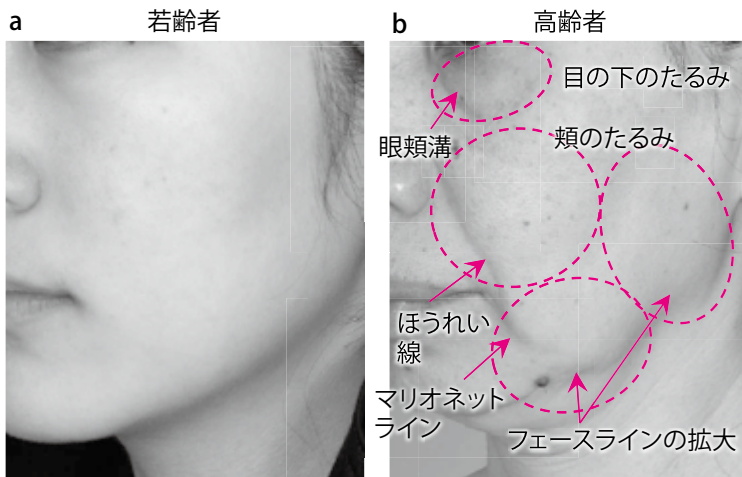


図1-1 加齢に伴う顔の形の変化（頬と目の下のたるみ）

a) 若齢者では顔の形状は滑らかである。b) 高齢者では頬や目の下がたるんでいる（点線で囲った各部位）。頬は上部、下部、外辺部と3つのエリアでそれぞれたるみが進行する。たるみにより眼頬溝、ほうれい線、マリオネットラインが形成され、フェースラインが曖昧となる。

たるみが起きると、たるみが少ない場所との間に歪みが生まれる（図1-2）。例えば、頬の上部がたるむと、たるみの少ない口周辺との間で歪みが生じ、境界線ができる。これが「ほうれい線」である。同様の変化は頬の下部にも起きて、「マリオネットライン」が形成される。また目の下のたるみにより、「眼^{がんきょうこう}頬溝」（図1-1）が形成される。

図1-3に上まぶたのたるみを示した。若齢者では目の輪郭は明確で、上まぶたも高い位置に有り、黒目の大部分が見えている。これに対して、高齢者では上まぶたがたるんで下がることで、目の開きが小さくなり、目尻にまぶたが被さった形状も見られる。

このようにたるみは、様々な顔の形の変化を引き起こす。

2) シワ

シワは表情や動きに伴い、皮膚に現れる溝状の形状のことである。図1-4に加齢とともに顔面に現れるシワを示した。表情を創出すると、皮膚がよれて一時的なシワが形成される。これが繰り返されて、次第に皮

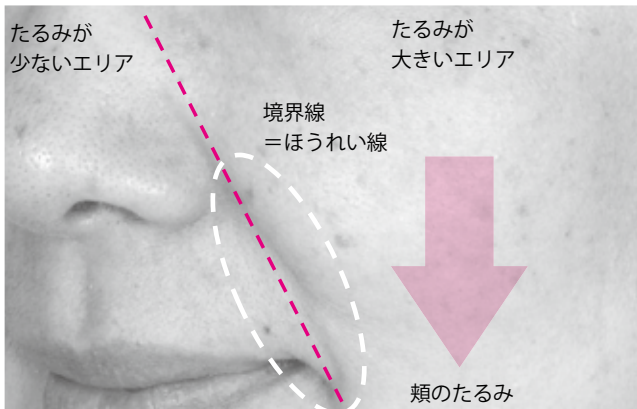


図1-2 たるみによるほうれい線の形成

重力により頬が大きくたるむと、たるみの少ない口周辺との間に形の歪みが生じる。これがほうれい線である。このようにほうれい線は深く刻まれたシワではなく、たるみにより作られた境界線である。実際、姿勢を変えて、重力の方向を変えると、たるみが軽減され、ほうれい線も消失する。

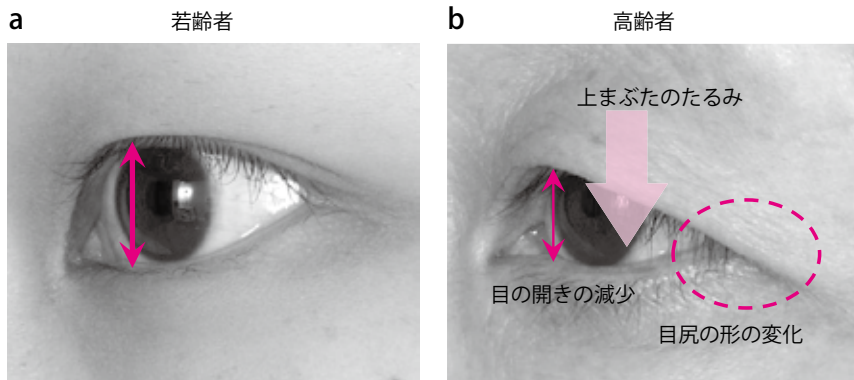


図1-3 加齢に伴う顔の形の変化（上まぶたのたるみ）

若齢者では目の輪郭が明瞭で、上まぶたが高い位置にある。これに対し高齢者では、上まぶたがたるみ（下垂し）、目の開きが減少し、目尻に上まぶたが覆い被さる（点線で囲った部分）。

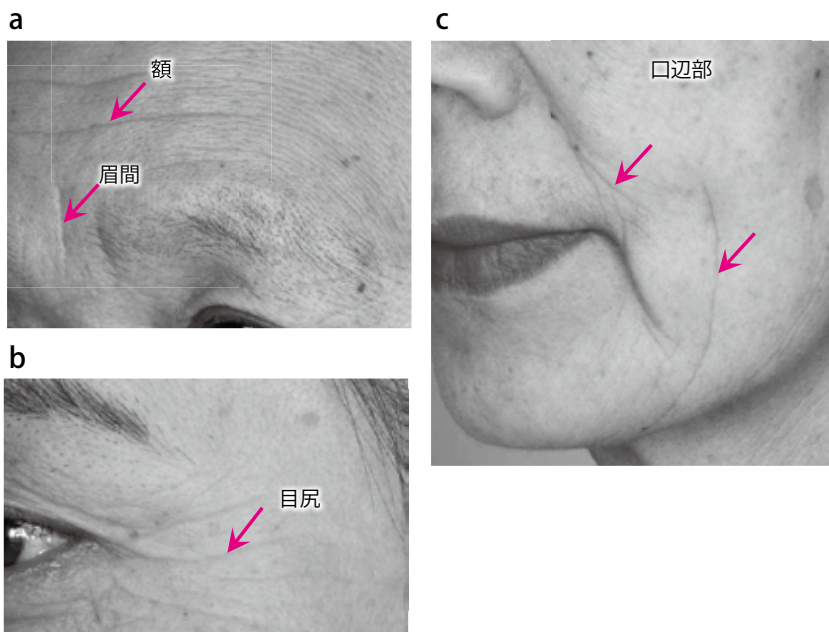


図1-4 加齢に伴うシワの形成

加齢により顔面では、a) 額、眉間、b) 目尻、c) 口の周りにシワ（矢印）が形成される。

膚に定着して、深く刻まれたシワとなる。

加齢や紫外線により皮膚の弾力が失われることは、シワの定着を促進する大きな要因である。目を大きく開く表情により額にシワが現れ、眉をひそめる表情により眉間にシワが形成される。また笑顔により目尻や、口の周りにシワが形成される。

1-2 皮膚の機能と構造

皮膚は体の表面を覆う全身で最大の臓器である。最外層から表皮、真皮、皮下組織で構成される（図1-5）。また顔面の皮下組織には表情筋が存在し、その活動により表情が創出される。

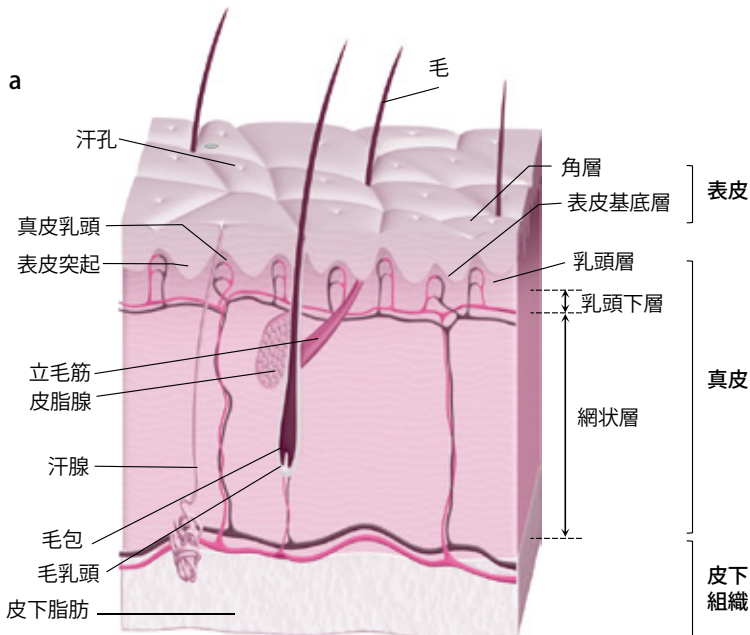


図1-5 皮膚の構造（断面図）

皮膚は最外層から、表皮、真皮、皮下組織の3層で構成される。皮膚には毛包、皮脂腺、汗腺、立毛筋等の付属器官や、血管、リンパ管、神経線維が存在する。



1) 皮膚の機能

表1-1に皮膚の主な機能を示した。皮膚は外部環境から生体を保護するバリアとしての機能と、生体の恒常性を維持する機能の2つの機能を持つ。

化学物質や病原菌の侵入は、主に表皮層のバリア機能により防御される。また変形や衝突といった物理的な刺激は、主に弾力のある真皮層やクッション性の高い脂肪層により防御される。

また皮膚は、生体の恒常性の維持にも機能する。皮膚表面からの放熱、皮下脂肪による保温効果により、体温を一定に維持する。さらに、主に表皮層の構造が、水分の蒸散による乾燥を防止する。皮膚の形状を保ち、内部の組織が突出しないように保持するのは、弾力性のある真皮層である。

2) 皮膚の構造

①キメ

皮膚の表面には細かい溝が存在し「キメ (micro-relief)」と呼ばれる(図1-6)。キメは「皮溝 (sulcus cutis)」と「皮丘 (crista cutis)」で形成され、皮膚の伸縮に備えた「伸びしろ」として機能する。

皮膚の主な機能	役割	目的
バリア機能	化学的な刺激からの保護	物質の侵入の防止
	生物的な刺激からの保護	病原菌等の侵入の防止
	物理的な刺激からの保護	紫外線や衝突からの内部組織の保護
恒常性の維持	体温の維持	放熱、保温
	乾燥の防止	水分の保持
	形状の保持	皮膚の定位、内部組織の突出の防止

表1-1 皮膚の機能